

私は、R235号の沙流川橋と沙流川鉄道橋に挟まれた地で生まれ育ち、幼少期は川とその橋梁群が遊びの主戦場でした。その当時からコンクリートの“躯体”に触れ、叩いたり石をぶついたり、いたずら書きをしたり、あれから40年以上経った今でも、コンクリート構造物の診断と称して、コンクリートをハンマーで叩いたり、お絵描き(マーキング)したり主戦場は変わっていません。

この業界で約30年あまり、コンクリート構造物の設計施工に従事してきて、ここ10年近くはコンクリート構造物の維持管理(点検調査・診断・補修等)の分野にも携わっていますが、日進月歩の維持管理技術にちょっと戸惑ったりもしています。ある人から、コンクリートの点検調査や診断については、理論立てて難しく考えるのではなく、例えばコンクリートを“身体”に置き換えれば理解しやすく、また説明もしやすいよと言われ、このように考えるようにしています。人の身体能力には生まれ持って優劣はあり(コンクリートの配合や養生環境、鉄筋の初期錆状態、他の初期欠陥)、そして寿命には生活習慣(自然環境条件による経年劣化)が大きく影響する。コンクリート診断は“健康診断”だと思えばイメージしやすい。触診だけでなく血液検査やレントゲン検査、心電図などコンクリート診断についても全く同じで、そのまま経過観察で様子を見ることもあれば要再検査、場合によっては緊急入院もありうる。

私はこの先も、コンクリート構造物に携わり続けるだろう。これからも「コンクリートと共に！」という気概を持って、コンクリート構造物の維持管理・長寿命化に貢献すべく、技術研鑽と向上心を保ち続けていきたいと思います。

戸塚 智勝 (とづか ともかつ)

●建設部門(道路)

勤務先

北海道キング設計株式会社
tozuka@hori-group.co.jp



→次号は、小野英樹さん(建設部門)

私は、釧路市に生まれ、高校まで過ごした後、中央大学の土木工学科を卒業しました。学生の時は、サイクリングサークルの主将や全国各地へのソロラン等、学業は疎かでしたが、充実した時間を過ごすことができました。その後、東京で、情報処理関連の会社に入社した後、釧路に戻り、初めてコンサル業務に携わりました。社会人になってからは、甘えがあったせいか、何かを、成し遂げた充実感が得られないままにだらだらと過ごしていました。技術士制度を知ってから、手の届く資格ではないと、思いこんでいました。それでも、現在の会社では、責任ある立場での仕事が多くなり、コンサル業に携わる以上、技術士取得は必要である。また学士である以上、資格を取得するべきと、考え挑戦しました。何度も挑戦した上に、平成25年度にようやく筆記試験に合格しましたが、まさかの口頭不合格。もう止めようかなとも考えましたが、諦めずに平成26年も再挑戦しました。昨年度より、自信がなかったので、口頭試験の準備はしていませんでしたが、筆記の合格でした。そこで、ホームページ上に載っていた次のような感じの文章が励みとなりました。「技術士の筆記試験に合格する確立は10%とし、口頭試験に不合格になる確立は10%であり、 $0.1 \times 0.1 = 1\%$ の確立である。」自分の場合、続けて筆記試験に合格したので、現在は $0.1 \times 0.1 \times 0.1 = 0.1\%$ の確立である。さらに、口頭試験に落ちるなんて、自分はそんな特別な存在ではないと考えました。平成26年に、ようやく40代のラストで合格することができました。合格できたのは、妻の協力と、有志の先輩技術士の方々や会社の支援があったからだと思います。今後も自己研鑽に励み、微力ながらも地域社会に貢献していきたいと思っています。

高橋 秀治 (たかはし ひではる)

●農業部門

勤務先

株式会社小出コンサルタント



→次号は、久保下 誠さん(農業部門)